



IDF PRESS RELEASE

Brussels, 6 September 2018

IDFプレスリリース

2018年9月6日、ブリュッセル発

パラ結核病の予防と管理に資する管理計画の現況を共有する

Sharing the status of control programmes to help prevent and control paratuberculosis

潜在的なヨーネ菌 (*Mycobacterium avium* subsp. *paratuberculosis*) の伝染に対処する研究活動の実情と、地域における管理対策および農家レベルと加工レベルで事前対策を施す方法が IDF パラ結核病 ParaTB フォーラムで示された。2018年6月4日に開催された当行事は、メキシコはカンクンにおけるパラ結核病国際会議と関連して開かれた。

世界全体に拡散・流行しているパラ結核病は、公知の治療法は現時点で存在しない。ヨーネ病としても知られるパラ結核病は、腸管内でヨーネ菌 *Mycobacterium avium* subsp. *paratuberculosis* (*M. paratuberculosis*) と呼ばれる細菌が引き起こす慢性の感染症である。家畜の消耗性が徐々に進行する疾患で、家畜は重篤な下痢症状を亢進してゆく。パラ結核病は主に、羊、牛および山羊、その他の反芻動物に影響を与える。

IDF パラ結核病フォーラムの参加者は、パラ結核病を管理する地域と国家による計画の実行を促す主な刺激策が、貿易上の必要性から影響されたことを認めた。処理業者による関心の度合も自主管理と国家計画の採択に寄与していることが分かった。同参加者はこの規範を農家の義務事項にすべきとの見解も抱いた。

講演者のプレゼンテーションで、パラ結核病の研究の現状と管理計画には変動があることを参加者は知った。課題の認知度を高め、国々の受け止め方と態度に変化を起こせば、パラ結核病に対処する努力に弾みが付くことも考えられる。

「感染した家畜を同定し排除するために新しい家畜に対するスクリーニング試験を含む有効な衛生管理規範と、成年の家畜を対象とした調査を継続することが、管理計画に仕組みられた現状のツールとなります。」と、David Kelton 博士は説明した。同氏は、このフォーラムを通じてヨーネ病の調査と管理に携わった国家計画のアクションチーム委員長である。

「酪農乳業界は、官界と学会のパートナーとともに、この病気の予防と管理に向けたビジョンを採用しなければなりません。国際酪農連盟 IDF は国際的な専門家と手を携えて、本件に対処する重要な役割を演じることができます。私ども専門家グループはこの問題を何年も注視してガイダンスとアドバイスを提供してきました。このシンポジウムのような対話を促進する国際的な集いで報告することは、多くの家畜の健康とアニマルウェルフェアを補完します。また酪農乳業界が、世界の消費者に安全な乳製品を確実に届けるといふ食品安全の規範を補完することにもなります。」と Kelton 博士は結論付けた。

IDF は、良好な反芻家畜の健康とアニマルウェルフェアの予防、管理および実施において国際獣疫事務局 OIE のような国際機関を支援する。

IDF ブリテン番号 493 / 2018、「第6回パラ結核病フォーラムの講演要旨集」は [IDF ウェブサイト](#) から入手できる。

IDF パラ結核病フォーラムに関する既刊分は無料でダウンロードできる。

完

翻訳：J IDF 事務局

编者注: 仮訳の正確性、完全性、有用性等についてはいかなる保証をするものではありません。参考資料として扱い、内容に疑義が生じた場合は英文の原文をご確認ください。